

# 樹齢150年、命つないだ大ケヤキ

古枝使いパンフルート作製

## 故郷に響け 再生の調べ

七年前、伐採の運命から一転、地元住民らの訴えで移植保存された高砂市内のケヤキの古木の枝から、ルーマニアの民族楽器「パンフルート」が作られた。ふるさとの木を守った活動を振り返ると、このパンフルートの演奏が二月二十五日、高砂市文化会館(同市高砂町朝日町)で催される記念コンサートで披露される。

(藤家 武)



岩田さんとケヤキのパンフルート

### 保存活動住民ら 来月、記念コンサート

当時、拡幅工事が迫っていた同市米田町の県道が一九九九年秋、「地城」沿いに、樹齢約百五十年を尊守り続けてくれた木と百年のケヤキの巨木二にお別れを」とコンサート中、市提供の土地へ移植された。移植してもトを開催。地元住民の木が枯れる恐れが強いことかへへの愛着を知った土地所、お別れコンサートで伐採が決まった。それ、有者が、心を動かされ移



伐採を免れ、移植されたケヤキの木(手前の2本)＝高砂市米田町

パンフルート演奏の第一人者、岩田英憲さん(広島県在住)が、演奏を披露。透明感のある優しい音色が、多くの人を魅了した。そこで、コンサートを企画した人らが、クレーンでつり動かすため切り払われたケヤキの枝を使って、パンフルート作りを発案した。「命の再生を次代に伝えて行こう」との思いからだった。

パンフルートは五年がかりで二つ完成し、今回、再びケヤキをめぐるコンサートが実現した。事務局を務める作家の西村泰子さん(スウェーデン)加古川市東神古町は「移植後、まだ元気を回復していない二本のケヤキにエールを送りたい」と話す。岩田さんは「ケヤキの音が聞こえてくるような演奏にしたい」と意気込む。当日は、西村さんの知人でボスニア・ヘルツェゴビナの女性歌手、ヤドランカさんも出演する。

一般 千円、小中学生 千円、N企画(西村さん) 2079・431・90